

高卒向け 講座案内

右は2024年度の時間割です

月	1A	1B	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1月	数学I 第1回	数学II 第1回			数学I 第2回			数学II 第2回					
2月													
3月	数学I 第3回	数学II 第3回			英語I 第1回	英語II 第1回		英語I 第2回	英語II 第2回				
4月													
5月	数学I 第4回	数学II 第4回						数学I 第5回					
6月													
7月	数学I 第6回	数学II 第5回											
8月													
9月	数学I 第7回	数学II 第6回						英語I 第3回	英語II 第3回				
10月													
11月	数学I 第8回	数学II 第7回											
12月													

数学

担当：早川

アシストシステムでは、数学の授業をレベル別に2つまたは3つの講座に分けて開講します。授業は対面式で行い、1クラスあたり2〜4人程度の少人数制です。特徴として、実際に問題を解きながら説明を進めるスタイルを採用しています。もちろん、公式や概念の説明が必要な場合は事前に行いますが、基本的には生徒に手を動かして問題を解いてもらい、その様子を見ながら指導していきます。このようなスタイルの授業は珍しいかもしれませんが、次のようなメリットがあります。

授業のメリット

- 1 問題を考えた後に説明を聞くため、理解しやすい
- 2 すでに知っている内容の説明が省略され、無駄なく効率的に学べる
- 3 知識の有無だけでなく、根本的な考え方や捉え方の誤りも把握し、正しい思考プロセスを指導できる

予習との違い

「考えた後に説明を聞くから、予習をしておけばいいのでは？」と思われるかもしれませんが、しかし、全員が予習を徹底するのは難しく、仮に前日に予習をしても、翌日には記憶が曖昧になっていることがよくあります。「考えてもわからなかった部分を、その直後に説明すること」こそ、効果的な学習につながると考えています。

数学的思考の習得

数学を解くには論理的な思考が必要です。授業では、生徒の解答を見ながら、どのような

考え方をすれば、より正しく論理的に解法を見つけるのかを丁寧に指導します。思考パターンを変え、身につけることは簡単ではありません。しかし、論理的な思考パターンを習得することこそ、数学を学ぶ本質的な目的です。この力は、大学入試だけでなく、その後の人生においても必ず役立ちます。

飛躍的な成長を実現

一般に、数学は短期間で成績が伸びる科目ではありません。しかし、アシストシステムの指導法を通じて、多くの生徒が飛躍的な成長を遂げています。「論理的に考え、解く力」を鍛えながら、数学の実力を確実に伸ばしていきましょう。

英語

担当：中西

英語は独学では理解しにくい科目です。

解説を読んでも意味が分からない、訳が正しいか判断できない、何を覚えればよいのか分からない——

こうした悩みを抱える受験生は少なくありません。

授業では、生徒の理解度に応じて考え方や解答の組み立て方を整理し、英語学習を効率的に進められるようにします。

一方で、基本から標準レベルまでの学習については、動画やアプリを活用した学習も有効です。文法や基本的な英文解釈については解説動画を用意しており、必要に応じて繰り返し確認できます。

また、英作文・英文和訳については、添削と解説を行う専用アプリを利用でき、自習中でも確認と修正を進めることができます。

ただし、難関大学を目指すレベルになると、動画やアプリだけでは不十分です。複雑な構文の読解や、答案の細かなニュアンスの調整、減点されない表現の判断などは、講師による直接の解説と添削が不可欠になります。そのため、アシストシステムでは、動画やアプリを補助として活用しつつ、最終的な仕上げは授業で行う形を重視しています。

また、入試で扱われる英文は時代とともに変化しています。近年では、生成AIやデジタル社会など、現代的なテーマが頻出していますが、市販教材や予備校では古い英文が使われ続けていることも少なくありません。

アシストシステムでは、最新の入試傾向を踏まえた英文を扱い、現在の大学入試に直結する英語力を養成します。



物理

担当：早川

アシストシステムの物理講座は、レベル別に2～4人程度の少人数制で行います。

授業は対面形式で行い、オリジナル問題集の難易度の高い問題を、一つひとつじっくりと解説していきます。

初回の授業で必ず伝えているのが、物理の学習では「難しめの問題」に取り組むべきという考え方です。その理由を説明します。

物理に登場する概念は非常に抽象的で難解です。そのため、「まずは基礎問題から…」と考えがちですが、実はそれが大きな落とし穴になることがあります。

基礎問題集の多くは、物理の複雑な本質を意図的に隠した「親切な問題」で構成されています。たとえば、公式に数字を当てはめるだけで解けるように工夫された問題をいくらか解いても、本質的な理解にはなかなか到達できません。

では、どうすればよいのか？

その答えの一つが、「あえて難しい問題に取り組むこと」です。

難易度の高い、「不親切な問題」にじっくりと時間をかけて向き合うことで、物理の本質を理解する力が鍛えられます。

アシストシステムでは、こうした難問を通じて公式の背景にある考え方や、物理現象の本質を深く理解できるよう指導していきます。単なる暗記ではなく、「なぜそうなるのか？」

をしっかりと考えながら学ぶことで、本当の意味での物理の力を身につけることができます。

アシストシステムの電子書籍

数学・物理・化学のテキストや問題集の一部を電子書籍の形式で販売しています。興味のある方はご覧ください。下記はその一部です。

数学 場合の数・確率 発展編・導入編
物理 この1冊
化学 有機化学 導入編
情報 情報 | 正誤問題



化学

担当：早川

化学の講座では、単元ごとの解説動画と演習を組み合わせた学習システムを採用しています。

各単元の基本事項は動画で確認し、週1回の演習授業と月1回の確認テストを軸に学習を進めていきます。テキスト・問題集はすべてオリジナルで、演習量を確保しやすい構成になっています。

化学の学習で最も重要だと考えているのは、解説そのものよりも、学習を回す仕組みです。

もちろん解説は必要ですが、それ以上に、どのような流れで演習を積み重ねていくかが結果を大きく左右します。

化学は覚える要素が多い科目であり、数学や物理とは異なり、一定量の演習を確保することが特に重要になります。

演習では、同じ問題を何度も繰り返すのではなく、同じレベルの問題に数多く取り組むことを重視しています。

同じ問題を繰り返すだけでは、解き方を覚えてしまい、理解が浅くなることがあります。それよりも、条件や設定の異なる問題に次々と当たること、知識の使い方が身につく、学習効率が高まります。この考え方に基き、同一単元・同一レベルの問題を小分けの問題セットとして用意しています。

一つのセットが終われば次へ、さらに次へと進める構造になっており、自習の中でも演習を継続しやすく、進捗や成果も実感しやすくなっています。

2026年度からは、講義内容の一部を動画に置き換えることで、授業回数を週2回から週1回に変更します。動画と演習を併用することで、学習効率を高め、自習時間でも学習が止まりにくい環境を整えています。

演習量を安定して確保できる学習システムを構築していることが、この化学講座の最大の特徴です。

生物

担当：石原

随分大学受験の生物問題集といえば「標準問題精講」。その著者が石原先生です。

先生の生物講義はオンラインで行われ、双方の対話が可能です。解説の合間にも頻りに生徒へ問いかけがあり、一つ一つの現象を丁寧に掘り下げながら進めていきます。

かつては「生物は覚えるだけの科目」と考えられていましたが、今では状況が大きく変わっています。高校で学ぶ科目の中でも生物は特に変化が激しく、単なる暗記ではなく深い思考力が求められます。

この「思考力」は、先生の著書「思考力問題精講」のテーマでもあり、講義の中心となる考え方です。講義を通じて、生物の本質を理解しながら、思考力を鍛えることができます。

国語と社会 社会に関しては、学習アプリと解説動画を用意しています。また、問題の作成や配布を行い、定期的な勉強会を実施するなど、継続的に学習を支援するシステムを構築しています。

情報 解説動画と学習アプリを用意しています。問題の作成や配布も行っています。

iPhoneアプリ 社会・情報・英文法の学習補助アプリを作成し、アプリストアで販売中です。これらのアプリは塾内でも利用できます。

授業時間など

高卒生向け講座は、原則として1コマ1.5時間です。数学は週3回（または2回）、その他の教科は週2回のペースで行います（化学は週1回が基本です）。4月初めに学習到達度によってプランを相談します。自習室利用者はiPadアプリによる解説動画の履修も組み合わせて進めていきます。テキスト代などの追加費用はかかりません。

原則として、お休みされた場合にも費用は発生しますが、オンライン受講や講義の録画提供などの対応を行います。